

P-0708-9

若人保健施設における着せりの満足度と施設の管理運営性および説明体制との関連

小川理恵、松岡美穂、原田麻衣子、大内内二子
1. 国立老人保健福祉大学、2. 国立老人保健福祉大学ヘルスケア・センター、3. 国立老人保健福祉大学、4. 国立老人保健福祉大学、5. 国立老人保健福祉大学

目的
平成21年に介護老人保健施設におけるサーベイランス制度が創設された。近年、介護老人保健施設での終末期医療の実施率は増加傾向にあり（平成16年33.2%→平成22年45.3%）、介護老人保健施設での医療へのニーズの増加も懸念されている（厚生への施設の利用率：平成20年26.0%→平成24年64.7%）。平成26年度は第1回社会保険審議会の議決が厚生労働省で決り、介護老人保健施設において、着せりを受ける医師を含めた医師の増加が必要である。

方法
全国老人保健福祉協会が2014年3月に実施した調査の調査票名データを、許可を得て再分析として二次的に分析した。調査対象は、全老健協会施設（n=3,528）の管理員および各施設で計画的な着せりを行った医師3コースの施設であった。調査票は施設を介して直接回収された。

結果
着せりを受ける医師の満足度（「着せりは無い着せりだったと思えたか」という質問（5段階）に対し、「大いに思えた」とそれ以外を従属数とした）は、施設別の管理運営性により記入された各種説明体制（入浴一先までにおける説明の状況、ケアプランの会議参加の有無など）、および管理医師の属性（施設職員に対する研修・指導・ストレスマネジメント等への取り組み）を独立変数とし、各々の関連を検討した。料費水準は5%で設定した。

施設における管理の確保：各種説明体制との関連

説明体制	説明体制が確保されている施設	説明体制が確保されていない施設
着せりを受ける医師の満足度	4.5	4.2
説明体制が確保されている施設	4.5	4.2
説明体制が確保されていない施設	4.5	4.2

結論
利用者の説明において多職種が担う役割が多く、職員が学会などの研修やストレスマネジメントなど、多職種の職員を育成している施設ほど、着せりを受ける医師の満足度が高い可能性があることが示された。今後、着せりを受ける医師の満足度を高めることにより、着せりを受ける医師の増加が向上することが考えられる。今後、多職種がストレスマネジメント研修などの方法により、着せりを受ける医師の増加に向けて検討する必要がある。

謝辞
調査にご協力いただいた介護士の方々には心より感謝いたします。また、共同研究の機会をいただきました全国老人保健福祉協会の方にも感謝申し上げます。

凡例大学 調査報告に感謝し、関心する企業にはお問い合わせください。

